

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっているように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部であり、また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であります。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査の結果です。（昨年、一昨年の結果は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を含む）

全国学力・学習状況調査は、知識・技能等と活用する力等を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	65.5		49.3	
	(1.04)		(0.95)	
R3正答率の全国比		62		65
		(0.95)		(0.94)
		0.96		0.93

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査より】

(1) 国語

「知識及び技能」の正答率は県正答率と全国正答率を上回っていたが、「思考力・判断力・表現力等」では大きく下回っていた。特に、課題が見られたのは「話すこと・聞くこと」の内容で、県正答率より9.2ポイント、全国正答率より11.1ポイント低い結果であった。資料を用いる目的を理解し、資料を活用して自分の考えが伝わるように表現することに課題があった。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県および全国正答率を上回る結果であったが、思考に関わる語句を文中で使うことや文中における主語と述語との関係を捉えることに課題が見られた。

(2) 算数

領域「データの活用」の正答率が県正答率より9.6ポイント、全国正答率より12.4ポイント低い結果であった。特に、「複数のデータを比較し、特徴をもった項目とその割合を読み取る」問題や「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する」問題の正答率は低い結果であった。統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していく力の育成が必要である。一方、領域「図形」「測定」の正答率は、県および全国の正答率と同等の傾向にあった。問題形式では、記述式解答の正答率が、県および全国の正答率を大きく下回っていた。

【意識調査より】

(1) 生活習慣や学習環境

- ◆ 「朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」等の基本的な生活習慣については、全児童が肯定的な回答をしている。
- ◆ 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童は90.9%で、県76.4%と比較しても自己肯定意識が高いと言える。
- ◆ 91%の児童が「学校に行くのは楽しい」と回答し、81.8%の児童が「自分の思っていることを言葉で表すことができる」と回答している。今後も継続して、月1回の生活アンケート等を活用して児童の実態把握に努め、教育相談体制を充実させていく必要がある。
- ◆ 「携帯電話、スマホやコンピュータ等を使うときの約束を守っている」と肯定的に回答した児童は91%、

それ以外の児童は「持っていない」と回答している。また、平日のゲーム等の使用時間について3時間以上という回答が18.2%、2時間以上3時間未満が36.4%、1時間以上2時間未満が63.6%であった。携帯電話等の使い方について家の人と約束したことを守っているという回答が90.5%で、県の69.6%を上回っており、約束を守りながらゲーム等を使用していると言えるが、家でのルール決めやルールの徹底について家庭への啓発を継続していく必要がある。

- ◆ 「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は81.8%で、学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童のうち、平日は81.8%、土日は63.7%であった。
- ◆ 「授業時間以外に読書を1日当たり30分以上する」と回答した児童は36.4%、「全くしない」と回答した児童は36.4%であることから、読書の習慣に個人差が見られる。

(2) 学校の授業

- ◆ 授業中のICT活用については「週1回以上」と回答した児童は81.8%で、県37.6%や全国40.1%を大きく上回っている。また、活用の内容についても、意見交換や調べ学習に週1回以上活用していると回答した児童が63.6%で、県26.5%や全国39.0%を大きく上回っている。
- ◆ 「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、文章や話の組立て等を工夫して発表した」と肯定的に回答した児童は、県59.1%に対して、本校は81.8%であった。
- ◆ 校内研究（算数科）に関わる項目では、「算数の勉強が好き」と肯定的に回答した児童は63.7%、「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的な回答は90.9%だった。また、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定的な回答は100%、「本調査問題で、記述式の問題でどのように回答したか」では「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と81.8%の児童が回答している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

① 主体的に学ぶ児童の育成

- ◆ 西部型授業の学習過程に沿って「つかむ、見通す、考える、学び合う、振り返る」過程を授業づくりの基本とする。特に、見通す過程で「思考の可視化」を意図した問題提示や発問の工夫を行い、考える過程で既習事項を使って自分の考えを表現し伝える力を育成する。
- ◆ 学習の見通しをもち粘り強く取り組み、その学習を振り返って次の学びにつなげる「主体的な学び」を目指し、指導内容の系統性を生かした授業展開の工夫や掲示物等の学習環境の充実を図る。

② ICT活用による指導の充実

- ◆ 新型コロナウイルス感染状況に応じて実施するオンライン授業等にも対応できるように、ICT環境を活用した学習指導の改善・充実を図るために、研修会の実施や活用方法の情報共有を行う。
- ◆ タブレット端末の活用による個に応じた指導の充実を図る。考える過程で、つまづきが予想される児童への支援として、ヒントカードや小集団での指導にタブレット端末を活用する。また、タブレット端末の活用については研修会を実施したり情報共有を図ったりする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

① 学力向上対策研修会の実施

夏季休業中に、全国学力学習状況調査結果を踏まえた研修会を実施し、本校の課題の共有と改善のための具体策について協議した。

【国語】

条件作文に課題があり、事実（意見）と根拠の書き表し方が不十分であったことから、文章から必

要な情報を適切に選択することや要約の仕方を指導する必要がある。また、主語・述語・修飾語を正しく理解して文章を書くことについても指導が必要であり、自分の考えをノートに記述する「思考の可視化」だけでなく、家庭学習の質的改善を図ることが重要である。

【算数】

公式の理解と活用力に課題が見られたことから、基礎・基本の習得の徹底が継続して必要であり、家庭学習の充実を図るとともにタブレット端末を活用したドリル学習の推進を行う。また、自分の考えを明確にして表現することを目指し、「西っこノートパワーアップ作戦」の取組を実践する。

② 読書活動の充実

図書館担当者と連携して、図書館教育を充実させる。(図書館の掲示物、読書週間の工夫、図書集会、図書館だより、武雄市おすすめの本の貸出奨励等)

③ 家庭学習の充実

家庭学習の質的改善を目指して、宿題(作文)で条件を与えることや、自主学習ノートの取り組み方の確認を行う。また、自主学習ノート等の内容を紹介し、家庭学習の意欲付けを図る。